



練習は東神戸、西宮沖の汚れた海で。後の水洗いも大仕事
(神戸市東灘区深江南町5丁目で)



なぜ「カッター」というのか。「船尾が垂直に切り取られてるでしょ。それでですよ」。航海学科三年の藤本純

神戸商船大カッター部

朝日新聞

一言(二)の明快な説明だ。カッター部長をつとめている。歴史をたどれば、軍艦の付属艇でオールを備えた雑役艇のことだそう。

クラブには九杯のカッター

がある。上部を

黒、船腹を白く塗

り分け船首に黄色

でコンパスとサク

ラをデザインした

校章。船尾に「神

戸商船大学」とあ

る。全長九杯。幅

二・三杯。乗員は

艇長、艇指揮各一

人、こぎ手が十二

人で計十四人。こ

ぎ手が握るオール

は長さ四・三杯。艇のバラ

スをとるためグリッ

プに鉛が

埋め込んであり、重

さは二〇

キを越す。ほとん

どの新人

は、まずこのオール

に振り回される。

五月末の全日本選

手権後に四年生五人が脱け、いま一

あふれるロマン

1977.10.3(日)

三年で三十三人。大学一の大所帯。十四校が出場した今年の選手権では海上保安大に次いで二位。五十、五十一年は連続優勝。「好成績が続き、入部勧誘をしなくても部員が集まる」と上級生の鼻息は荒い。学生は「海の男」を目指して全国から集まるが、入部の動機も「海のロマンが面白い」(藤本君)「オールを握り海にこぎ出ると血がわき上がる」(原子動力学科三年・堤盛保君)など。

夏休みには恒例の「瀬戸内海巡航」。今年も七月二十一日から十一日間、神戸市東灘区の大学から淡路・鳴門・女木島・牛窓・家島を、人力だけで頼りに航海した。もちろん三杯の艇に食糧を積み、冷蔵庫、コンロ、トイレを備え付け、潮の干満を調べるなど綿密な計画をたてる。「海と人間のドラマですね。夜間航海なんかロマンチックですよ」と藤本君。